

外部専門員の活用事例をご紹介します！

今号は、外部専門員を実際に活用して学習環境や指導内容が改善したケースを紹介いたします。教員と外部専門員とのやり取りの様子をご覧ください。

事例 中学部教員の相談ケース

外部専門員 平塚 乃梨 先生(理学療法士)



○相談内容 クラス生徒 A さんの給食時の姿勢について

食具（箸）の操作向上を目標とする生徒について平塚先生に相談しました。A さんは、エジソン箸を上手に使うことはできていましたが、食事中に前傾姿勢になってしまうことが課題でした。そこで、平塚先生に食事中の姿勢を改善し、保持するためにはどうしたらよいか相談しました。

まず、平塚先生に給食中の様子を観察していただきました。次に「机や椅子、配膳トレイの高さの調整」「体幹のトレーニング方法」の2点について尋ねました。

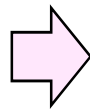
○平塚先生からの助言①「机やいすなどの高さ調整について」

「椅子の高さは低いものに変え、テーブルには台を置き、口元と食器の距離が近づき、猫背にならない高さまで台を上げると食べやすい。」

助言を受け、椅子の高さを下げ、配膳トレイの下に数cmの台を置きました。様子を観察していると、生徒は食器までの距離が近づき、前傾の場面は減ってきました。



改善前



配膳トレイの下に台を設置

低いいすに変更

改善後

○平塚先生からの助言②「体幹のトレーニング方法について」

「クラス全体で雑巾がけ・手押し車・プランク4種（15秒ずつ）に取り組みましょう」

体幹のトレーニングについては、朝の運動の時間や学級生活単元の時間で「雑巾がけ」、「手押し車」、「プランクトレーニング数種類」に取り組みました。しかし、体幹トレーニングをただ継続して取り組むと、モチベーションが高まらないため、クラス全体でゲーム形式や競争を取り入れて取り掛かりやすい環境を作るよう心掛けました。トレーニングを日常的に取り組んでいく中で、他の生徒からも「やりたい!」という声も上がるようになり、楽しんで活動するようになりました。



手押し車



体幹トレーニング

○相談後の様子

2週間後、平塚先生に体幹トレーニングの様子などを見ていただきました。Aさんは少しずつ、給食時の前傾姿勢が改善されてきました。今後も体幹トレーニングは継続して取り組み、定期的に平塚先生に経過観察をしていただくことにしました。給食時の姿勢に関する環境調整については、体幹トレーニングの評価を踏まえて改善を重ねていく予定です。

今回の外部専門員の先生との連携を通して学んだことは、環境調整と体幹トレーニングの2点です。今後取り組むべき課題についても明確にアドバイスをいただくことができました。これからも生徒の様子を見ながら積極的に指導に生かしていきます。

【問い合わせ】

東京都立高島特別支援学校
Tel 03(3938)0415
副校長 渡部 早苗
研究研修部 鈴木 悠介